



HSK

うづき
卯月号

NO.125 2011.4.10号

Advocate

1973年1月13日第三種郵便認可 HSK通巻番号469号

発行/2011年4月10日

編集者/我妻 武

住所/〒063-0812

札幌市西区琴似2条5丁目3-5 マンションMOMO1F

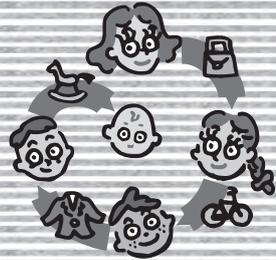
特定非営利活動法人 札幌・障害者活動支援センターライフ

TEL 011-614-1873 FAX 011-613-9323

H P <http://npolife.net/>

発行/北海道障害者団体定期刊行物協会

定 価/100円



『ライフの新事業について』

ライフ理事 我妻 武

ライフが昨年から新事業として、取り組もうということを目標に掲げていました、リサイクル環境事業を本年4月からスタートさせました。

まずは札幌市が、行っている委託事業を受けることになり、スタートさせています。これは、『ごみ減量の普及啓発拠点』として設置されているプラザや地区センターの運営委託となります。これは札幌市が市民の方から再利用を希望して出された家具・自転車・子ども遊具等を修理し、リユース品の利用促進を目的に展示即売を行うものです。また、家庭ごみの資源化促進を図るため、資源物を1カ所にまとめて持ち込むことができる「地区リサイクルセンター」の管理やリサイクルに関する啓蒙も行うもので、ライフはその事業の運営委託を札幌市から受けることになりました。

厚別リユースプラザに関しては、リユース品の展示やホームページを活用した情報発信を行っており、入場者数も年々増加傾向にあります。

今年度からライフの新規事業として、このプラザの事業をより発展的に、そして利用者が楽しんで利用できるようにしていきたいと思っています。

また、リサイクルプラザ発寒工房では、熟練した職人の手により、家具や自転車が生まれ変わります。

今では手に入れるのが困難になった、家具やアンティークとしても利用価値のあるテーブルやイスなど、これまでのリサイクルと、ひと味違ったモノを創造し、提供しようと思っています。

始まったばかりの事業ではありますが、今後従来のいいものはそのまま残しながら、創意工夫しライフならではの独自性を出しながら地域にとけ込んでいけるような事業所を目指し、努力を重ねていきます。

そして、その事により、利用者が大切に使い続けて、頂けるようなモノ作りにつなげていけるよう努力していきます。

そこで働く人たちの中には、障害者や高齢者の方々があります。それぞれの経験や特技を生かしながら、環境と福祉について取り組むライフの事業の中でも大きな役割を持つ事業になると思われます。



東北関東大震災への継続的な支援を

ライフ理事 我妻 武

去る3月11日の東北関東大地震と大津波、さらには福島原発事故という大災害からまもなく2カ月が経とうとしています。あまりにも大きな震災のために、目を背けたくなるようなレポートがテレビや新聞を通じて毎日入ってきます。

被災された方の中には多くの障害者やその家族もいるでしょう。少しずつですが、そうした方々の状況も知られるようになってきました。

中には健常の被災者に迷惑をかけるからと、別な部屋を障害のある人たちの避難場所とした例や逆にスペースがないからといってみんなと一緒にになり、迷惑をかけないようにひっそりと我慢している方もいると聞きます。

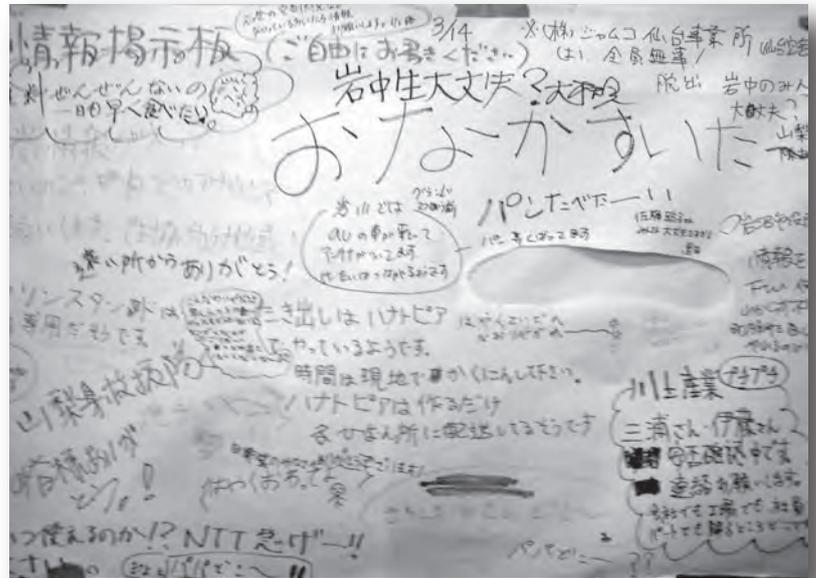
こうした障害者への支援が遅れていましたが、日本障害者フォーラム(JDF・東京)らによる「みやぎ支援センター」が立ち上がり、支援活動を始めました。



また、ゆめ風基金(大阪)などによる「東北関東大震災障害者救援本部」も被災障害者への支援を目的とした募金活動を開始し、阪神淡路大震災で基金に寄せられた浄財の残金を、すべて今回の被災地の支援に充てること

が決定されましたから、少しずつ被災障害者へ支援が始まることでしょう。

ライフでも4月12日に職員1名(元気ジョブ・大加瀬)をゆめ風基金らによる「東北関東大震災障害者救援本部」(仙台市事務局)に派遣しました。当面は2週間の派遣ですが、今後



は継続的な支援として、ライフでの義援金集めと大加瀬さんが帰社後に行う現地の報告などを受けて、今後の派遣も含めての支援の在り方について検討していきたいと考えています。

現地の大加瀬さんからは、普段目にするメディアとは違い、悲痛な写真とメールが届きます。改めてどんな支援が必要なのか、何をしなければいけないのか考えさせられます。

被災地では、具体的な支援活動拠点となる被災障害者センターも立ち上がり、より具体的な支援が開始され始めています。しかし、こうした活動への支援はもとより、被災された方々への継続的な支援が必要となりますので、皆様方の引き続きのご支援をお願いするところです。



※写真撮影: 元気ジョブ・大加瀬



※ 写真撮影: 元気ジョブ・大加瀬

● ゆめ風基金

〒533-0033 大阪市東淀川区東中島1-14-1 シティハイム108
TEL (06) 6324-7702 FAX (06) 6321-5662
郵便振替口座 00980-7-40043
加入者名 ゆめ・風基金

● 「被災地障がい者センターみやぎ」

仙台市太白区長町1-6-1 CILたすけっと内
TEL (080) 3303-3130/ (080) 3303-3131
FAX (022) 248-6016

● 「被災地障がい者支援センター福島」

郡山市朝日2丁目21-10 YKビル102
JDF被災地障がい者支援センター福島
TEL (080) 6007-8531 FAX (024) 925-2428

● 「被災地障害者支援センター岩手」

盛岡市本宮1-3-20 光立ビル1F
TEL (080) 3303-3135/ (080) 3303-3136



ライフでの義援金集めは、ライフ本部（札幌市西区琴似2条5丁目3-5マンションMOMO1F）、コンブリオ・ひだまり、カフェドキバラヤ、ひだまり配送センターなどで集めていますので、ご協力をお願いいたします。

ここで集められた義援金は、ゆめ風基金を通じて、東北関東大震災障害者救援本部（仙台市事務局）へ送り、被災障害者のために使われます。

また、5月5日（木）10時から15時まで、ライフの新事業としてスタートしたりサイクル環境事業の拠点のひとつである、札幌市厚別リユースプラザ（厚別区厚別東3-1）においてもこどもの日のイベントを行います。ここでも支援の呼びかけを行いますので、ご参加いただき、ご協力をいただければ幸いです。

今回の震災はあまりにも規模が大きく、行政ですら地域で暮らしている障害者の情報をなくしているために、情報を全く把握できていないということです。こうした時だからこそ、同じ障害を持つ者としての目線で支援できる支援の仕方があるだろうと思っています。

入札制度に挑んだ障害者雇用 Vol 2

大阪知的障害者雇用促進建物サービス事業協同組合理事長

株式会社 **ナイス**
代表取締役 富田 一幸



「新雇用産業」への飛躍

大阪ビルメンテナンス協会とエル・チャレンジは、総合評価入札を機に連携を深め、共同して天神祭での「ビルメン御輿」や「障害者就労支援スタッフ養成講座」に取り組んでいる。全国ビルメンテナンス協会も自らを「新雇用産業」と位置づけて、大阪協会の取り組みを高く評価し始めてきた。

すでに雇用率10%以上の企業も10社近く出てきて、中には障害者で20%、就職困難者も入れると30%を超える企業も出てきている。障害者雇用はその企業の「雇用管理」の転換をもたらし、企業内の「労働市場の再発見」につながりはじめている。さらには、発注先の社会福祉法人と提携し、「園芸福祉」プログラムを開発した企業もある。ビルメン企業に福祉を志す若い人が就職し始めた。

ある企業は「社会のために始めたことが会社のためになった」と概括したが、「企業の社会貢献(CSR)」とは違う「社会志向企業」が登場したことを感じさせる。いわばエル・チャレンジのような「中間労働市場事業体」、大阪のビルメンテナンス企業に現れた「社会志向企業」、そして滋賀県等のような「社会的事業所」、少なくとも3つの型の「社会的企業」のモデルが出てきたのである。

「いい仕事を、みんなでやる」都市公園管理共同体

大阪府立公園に指定管理者制度が導入されたことから、知的障害者をホームレスに置き換えた試みを始めたのは2006年からだった。「働く意欲は働くことから」は「公園で寝てる人から公園で働く人へ」に、「施設なき授産」は「ホームレス就労体験事業」に、「非営利と営利の事業協同組合」は「非営利と営利の都市公園管理共同体(JV)」に、「総合評価入札」は「指定管理者選考に福祉点数」に置き換えた。そして、中間支援の役割はNPO釜ヶ崎支援機構と(株)ナイスくらし応援室が担った。都合3回の指定管理者選考を経て、都市公園管理共同体は18公園中5つの公園を受託した。しかし、橋下知事が選考をやり直させ、一気に価格競争に傾くなど、前途は多難である。

我々は、2006年秋、イギリス、イタリアの社会的企業、社会的協同組合を訪問し、「ソーシャル・ファーム」を学んだ。「(職業訓練ではなく)きみも働いてみないか」、「いい仕事をしたい」…刺激的な視察だった。

都市公園管理共同体は、「園芸福祉」「菜の花プロジェクト」「レンタサイクル」「犬のトイレ」等のプロジェクトを生み出した。「公園を管理するVS公園を活かす」という争点も創り出した。「いい仕事を、みんなでやる」という理念で、有限責任事業組合(LLP)でホームレス支援の「まちの花屋Bon」、合同会社(LLC)で「おしごと興業」も創った。おしごと興業は、八尾市内の作業所やNPO等9団体が参画して、仕事興しを業とするが、仕事だけでなく、住民も公園の運営に参画するという意味で「みんなでやる」としたところにも、ソーシャル・ファームの趣旨を盛り込んだ。

「中間労働市場事業体」「社会志向企業」「社会的事業所」に続いて「ソーシャル・ファーム」という「社会的企業」の4つめのモデルを公園管理で描こうとしたものだ。障害者やホームレス、住民の多様な参加、働き方を考えたのであって、「雇う、雇われる」或いは「資金に還元される」だけが働くということではない。

「ビッグアイ共働体」で新しいソーシャル・ファーム

政策随契で清掃業務を受託していた国際障害者年記念施設(ビッグアイ)が「事業仕分け」を受け、国による競争入札になり、職場を失う危機に直面したことから、エル・チャレンジは反転攻勢に出た。

結果は、政策随契が実質的に維持されることになったので、障害者の当事者団体が改組した社会福祉法人と、旅館業法登録のビルメンテナンス企業と、協働事業のスペシャリスト(株)ナイスの3社が「ビッグアイ共働体」というJVを組み(落札後にエル・チャレンジも参加予定)、2011年2月、入札に参加した。

訪欧の際に知ったソーシャル・ファームによるホテル経営がモデルになったのだが、落札できれば、エル・

チャレンジは清掃の委託事業者から施設全体の共同経営者となって、ソーシャル・ファームの新しい実践に挑戦できると意気込んでいる。

「学校」という社会的企業戦略

2009年、国の独立行政法人・能力開発機構が設置した大阪の地域職業訓練センター、A'ワーク創造館が橋下知事の改革で事業終結となった。そこで我々は、民間活力による公募を提案し、「有限責任事業組合(LLP)大阪職業教育協働機構」を創った。名だたる企業が説明会に来たが採算が合わないかと断念するなか、3年契約で受託した。そして、コストを1/2に、利用者を2倍にして再生させた。我々がめざしたのは、公と民の職業訓練の「隙間」のような役割、いわば、「社会的コミュニティ・カレッジ」の模索だった。ところが「事業仕分け」で国が地域職業訓練センターを一方向的に廃止し、我々は3年契約を1年残したまま彷徨っている。

一方、(株)ナイスは、企業内の非営利部門として「くらし応援室」を創り、「路情新聞」の発行や就労支援に取り組んできたが、「支援する側、支援される側」の「二項対立」を超える取り組みを経て、「楽塾」という「学校」に行き着いた。コンセプトは「遊びをまなび、学びをあそぶ」であり、遊びと学びを通じて「人として回帰する拠点」が楽塾という趣旨である。

我々は、「短大」のような地域の職業訓練校と、「定時制」のような地域の学校という両面からのアプローチで、「いつでも、どこでも、だれでも、まなべる、まなび直せる」学校を、「公」でもない「民」でもない「社会(社会的企業)」によって育むという新しい構想を模索している。「中間労働市場事業体」「社会志向企業」「社会的事業所」「ソーシャル・ファーム」に続く、「社会的企業」の5つめのモデルは「学校」ではないだろうかという構想である。

「3つの法律」+社会的企業

「福祉」「雇用」「産業」のトライアングルを好循環させる仕組みとして、3つの法律を提唱する。

1つ目は、「中間労働市場法」で、地方自治法の「2号随契」にインセンティブ(奨励策)を与えるとともに、地方自治法だけではなく、医療や福祉、建設、運輸、地域など他の市場にも広げられる法制度の整備である。エル・チャレンジの実績に基づけば、100ヶ所10年で10万人の就労支援が可能である。

2つ目は、「政策入札法」で、総合評価入札を促進するための法制度の整備である。公共調達65兆円市場と推計されているが、わずか3000億円で10万人の雇用が可能となる。民主党では「社会的支援を必要とする人たちの自立就労・雇用の場を創る議員連盟(自立就労議連)」が発足し、(日)公共調達、公的事業を活用した自立就労・雇用の場の創出、(月)自立就労を含む総合評価入札の実現、(火)社会的事業体(ソーシャル・ファーム)の支援促進を目的に掲げている。

3つ目は、「社会的事業所法」で、炭谷茂さんは「2000のソーシャル・ファームを!」と提唱されている。ソーシャル・マーケットは70兆円市場と推計されており、この新しい市場において、「困難を抱えた人たちを顧客に変える事業体」をいわば「A型」とし、「労働市場から排除された人たちと共に働く場を創出する事業体」を「B型」とし、「A+B型」も含めた「社会的事業所」の支援促進が検討される必要がある。ソーシャル・マーケットこそ「やってあげる、やってもらう」ではなく「やっていこう」で拓く市場ではないだろうか。「社会的事業所」運動にはそんな可能性を感じる。

ところで、エル・チャレンジの「施設なき授産」、就労サポート事業の「多様な企業就労」、工賃倍増事業の「ディーセント・ワーク」、社会的事業所の「共同労働」、生活保護支援の「半就労・半福祉」、或いは「短大のような、定時制のような」職業教育支援は、いずれも「中間労働市場」であれ「通常労働市場」であれ、労働市場の中で「尊厳ある地位」を承認するという「フル就業」戦略を意味している。

振り返って、「最初のボタンをかけ直した」福祉と、「行政の福祉化」を選択した自治体と、「新雇用産業」に気づいた企業の三位一体が、悪循環の連鎖にあった現状を好循環に転換させて、「三方良し」のシンプルなシステムを実現し、10年維持している力となった。

我々は、「法制度がないと公は動かない。儲からないと民は動かない。しかし、法制度がなくても、儲からなくても社会問題は解決しなければならない」と言い続けてきた。「アナザウェイ(他に道はないか)」を探求するのが「社会的企業」で、「3+1」の力ということだ。(株)ナイスの社是は、「いい加減(湯加減のような)」な会社である。

※本原稿は、本年1月29日に札幌で行った「障害者等の雇用を考える社会的事業所の役割」での発言原稿で、先月号の続きです。

<p>社会的事業所集団 はたらくてい 傍楽亭</p>	<p>アウトソーシングセンター 元気ジョブ</p>	<p>札幌市西区二十四軒4条6丁目5-32 テラ二十四軒1F TEL (011) 633-6666 FAX (011) 644-0088</p> 
---	--------------------------------------	--

心のこもった「こっぺ」への支援金、大加瀬君の派遣カンパ ありがとうございました

4月12日、ライフの職員であり元気ジョブのスタッフの大加瀬君が、被災地仙台へ出発しました。今回の派遣は、被災に苦しむ障害者・作業所を少しでも支援したいということと、その現状をつかみ今後の活動に生かしていきたいと、ライフの皆さんの想いを受けて実現しました。あらためて仲間ってイイモンダナァと思っています。

皆さんのカンパ本当にありがとうございました。あの日常の全てを呑み込んだ悪魔のような東日本大震災から1月経ちました。少しずつ復興の兆しがでてきていますが、天災に加え人災というべき目に見えない放射能に、被災者はおそれおののいています。

被災地の復興、人々の心の復興までには気が遠くなるような長い道のりになることを私たちも覚悟しなければなりません。今後長期にわたって被災地の障害者・作業所を支える仕組み、被災地の障害者・作業所に金がまわる仕組みをつくっていくことが必要になるでしょう。

そのために授産品などを販売する「復興市」な

理事 織本 義明

どをジョブも行政—企業—各作業所と手を携えて早急に検討しなければならないと思っています。

大加瀬君は2週間の予定で行きましたので帰ってき次第報告会を行い、またアドボケイトでも報告されますのでヨロシク。苦難と希望をともにして、息の長い取り組みを！

最近よくサイモン&ガーファンクルの「明日に架ける橋」が耳もとに聞こえ、より切実に胸に響いてくるようになりました。もちろん英語の意味がわかるはずもなく、その歌詞から一部抜粋。



君が疲れ果て、
途方にくれて
涙さへ浮かべていたら
ボクがその涙を
拭いてあげるよ

(略)

友が必要な時は、
振り返ってごらん
いつも君の後ろに
ボクがいる

(略)

暗闇が訪れ、苦しみに
包まれた時も
ボクは、必ず君の
味方だよ

激流に架かる橋の
ように
君の心の支えに
なってあげるよ

「障害者雇用問題について」

中田 俊秀

最近、すっかり春めいてきましたね。桜前線の北上とともに桜開花の足音が聞こえてきそうです。統一地方選挙も終え（一部を除き）当選された方々には今後、私たちの期待に添えるよう頑張ってくれることを願うばかりです。しかしながら、私たちもただ甘えて任せるだけではなく、私たちができることは私たちで考え行動していくことも大事なことだと思います。

ここ数年景気停滞の中、雇用悪化が大きな社会問題になっていまして、新卒・既卒未就労者、中高年の未就労者等の雇用が大変厳しい状況下に置かれています。まして障害者雇用となるとより一層厳しい状況です。雇用する側はこの不景気を乗り越えるために人件費削減他のコスト削減をして生き残りをかけていますので、なかなか新たに雇用する方向へと進んでいないのが現状です。その解決策として、私たちで新たに事業を興し障害者雇用を行ない、事業の展開をはかっていくことも一つの方法であります。もちろん収益を出していかなければ意味がありませんがね…。

いずれにしても何らかの形で障害者雇用に結び付ける事業を興し、共に働き苦楽を共に分かち合えるようになれば良いです。



復帰しました

佐藤 賢治

はじめましてというかひさびさ、ごぶさたしております。私こと佐藤賢治は自分のおちどからけがしてしまい入院しておりました。

今回のけがではっきりわかったおちどとは、おちつきのない自分です。次回からはもっとおちつきのある自分になりたいとおもいます… (笑)



折り作業中の佐藤賢治さん

春自問

小黑 悠佑

踊る、歌う、笑う、妄想する、痲癩を起こす、筋肉を意識する、大きい声、混乱、過剰なボケ... スタッフのツッコミが入りスパーク!

遊んでいるわけではない、これがたねやだ
これは「生きている」という仕事と言える。
一人一人が人生の主人公だからそれぞれ「生」を主張する。皆が必死に魂を燃やす。給料 up も新しい仕事への挑戦もこの「生」の輝きが必要だ。輝きを燃やす手助けができればいいが、自分の発言や行動はこの輝きを消していないか? やってみたいとわからない。皆と切磋琢磨して探して行きたい。



かご拭きをしている南友康さん

トイレ清掃がんばっています

南 友康

今回はじめてやったのはトイレカバーです。金曜日にトイレカバーをとりかえます。最初はむずかしいですが、すこしづつうまくなりたいです。お風呂掃除はいつもとおりうまくやっています。

ロッカー掃除はてぬきしてしまったときがありました。てぬきしないでそうじをしています。これからも清掃がんばります。

シュレッダー部のつぶやき、...

シュレッダー事業部一同

たねやにシュレッダー部が発足し、半年近く経過しました。

慣れてきたためか、最近スランプに陥っている後藤さん。シュレッダーよりも自作の作品に気が取られてしまっています。

彼を粘り強くサポートし、時には叱咤激励し続ける小山さん。今後も後藤さんの「やる気スイッチ」を探し続ける小山さんです...



後藤冬風さんを見守る小山譲さん

札幌市障がい者協働事業
共働事業所

きばりや **キ** **バラネット** ☆☆☆
個性豊かなスタッフが共に働いています。

新年度に入り…

所長 岡田 悟

きばりやも、とうとう6期目に入りました。

今年度は、ライフ全体としても大きく変革を求められる1年になると共に、継続的な震災への支援についても、考えていかなければならない1年です。

被災地がニュースで流れるたびに、いまだに夢じゃないかと疑う自分がいます。しかし、みんなでその状況を共有し、できることから1つ1つ取り組んでいく。その1つが10になり100になり、大きな力になると信じています。

私達も社会に支えられているばかりではなく、社会を支える一員として、しっかり仕事をし還元していく。それぞれが持っている能力を駆使し、それぞれが色々な形で支えあっていくことを考えていかなければと思います。

今回の地震で感じたこと

織本 亜哉子

先月11日に、マグニチュード9.0の地震が東北地方三陸海岸沖でありました。テレビで映像を観たら、津波で今までそこにあった家が流されて大変だったと思います。

私は今まで強い地震があったとしても津波を経験したことはありません。津波で家がなくなってしまった被災者は大変だと思います。そのなかでも、お年寄りや身体障害者の人は、歩く所や避難所での生活、また、これから生活していく所を探すのは大変だと思います。

今回の地震で被災をしてしまった人たちの心の支えや、障害者のこれからのことを考えると、私も何を考えていけばいいのかわかりません。同じ障害者として、被災された人たちの助けになればいいなあと思います。

徐々に製本作業に行ってみて思うこと

石川 和寛

製本に行って気付いたことは機械で整えて、それを別の机に置くときに「次行こう」と思ってしまうからずれる事があるのでそこだけ気を付けなければいけないと常に心掛けしています。

共働事業所 きばりや

〒063-0061

札幌市西区西町北7丁目1-5 斎藤ビル1F

TEL: (011) 669-3810 FAX: (011) 669-3808

E-mail: kibarिया@npolife.net

カフェ新スタッフ紹介

井上 麻子

こちらのカフェで働かせていただいて2ヶ月近くが経ちました。

これからも、優しい味と暖かい雰囲気をお客様に提供していきたいと思っています。

Cafe de キバリヤより

コーヒーや小麦、野菜等の価格高騰が続き、5月より一部値上げさせていただきましたことになりました。ホットコーヒーは250円から280円に、プレートのドリンクセットは500円から550円に。

さらなるサービス向上に努力してまいります。ご理解よろしくお願ひ致します。

また、5月には4周年を迎えて、新しくスーププレートやサンドイッチが登場します。

もっと気軽に寄れる、ホッとできるカフェとして、そして共に働く場としても安心・安全をモットーに毎日笑顔で営業してまいります。



〒060-0808

札幌市北区北8条西3丁目

札幌エルプラザ3F 喫茶コーナー

TEL/FAX: (011) 758-6533



コン・ブリオひだまり TEL(011)615-4131
 西区琴似2条3丁目2-37 サンハイム1F
ひだまり配送センター TEL(011)613-0611
 西区二十四軒4条6丁目5-32 テラ二十四軒1F
 コン・ブリオひだまりに配送センターができました。

コン・ブリオひだまりニュース！！

4月8日(金)
夜の部門



プレオープンいたしました。

たくさんの身内の方たちに来ていただきました。ありがとうございます。

まだまだ課題は山ほどありますが、今後も皆様のご意見ご希望などを聞き入れて、たくさんの方たちにご来店頂けるお店にしていきたいと考えております。

今後ともよろしく願いいたします。



また、5月GW明けにグランドオープンする予定でしたが、山ほどの課題を抱えております。スタッフ一同ご来店下さるお客様に心地よいひと時をお過ごしいただけるよう今後とも努力いたしますので、今しばらくグランドオープンはお待ちいただく事になります。

ただ、5月GW明けにグランドオープンする予定でしたが、山ほどの課題を抱えております。スタッフ一同ご来店下さるお客様に心地よいひと時をお過ごしいただけるよう今後とも努力いたしますので、今しばらくグランドオープンはお待ちいただく事になります。

5月の夜の営業は毎週金曜日
6日・13日・20日・27日になります。
皆さまのご来店をお待ちしております。

メニューの一部

☆飲み物☆

- サッポロビール (中瓶) 400円
- 日本酒 (千歳鶴純米酒) 350円
- 麦焼酎 (喜多里) 300円
- 冷酒 (千歳鶴純米生酒) 500円

☆食べ物☆

その日のおまかせになりますので、何が出てくるかはお楽しみ！！

値段は **100円～300円** で提供しておりますが、今後メニュー並びに価格の方も変更いたします。

その他おまかせ定食 **500円** もございます。



メンバーからの一言

石田 程哉

たねやのウルクさんが4月1日から始まった発寒リサイクルプラザの所長になることになり、その祝賀会が行われました。小黑さんがギターで祝福してくれました。たねやのメンバーのメッセージがおくられよろこんでいました。

余田 知広

忘年会で踊って楽しかった。新年会で踊って楽しかった。

ヘルパー派遣業務・在宅介護支援 ヘルパーステーション

ゆい 繭結



ヘルパー実習生受け入れ中

理事 笠井 衛二

昨年の五月よりヘルパーステーション繭結では、ヘルパーの実習生を受け入れている。

ヘルパー実習の対象である在宅の介護は、介護保険によるお年寄り世帯が大多数であり、障害者世帯に入ることはあまりない。それは障害者が日中、職場や作業所で過ごしており、実習生の時間帯には家にいない事が多いからだ。ゆえにヘルパーのほとんどは、障害者のケアを知らずにヘルパー資格を習得している。

ヘルパー養成のサンシャイン学園より実習依頼があり、障害者の生活実態を知ってもらい、いいチャンスとして受け入れを検討、たねやのメンバーで单身生活を謳歌している〇林さんが「身を賭して私が犠牲になる」と彼らしいシャイな同意で開始し約一年が経った。実習生に感じたあれこれを書いてみたい。



お酒と女性を愛する
〇林さん!!

「いやー、障害者って明るいんですね。冗談をいうんですよ。ヘルパーさんも鼻歌うたいながら、ニコニコ顔で活動しました」とは先週、実習を終え事務所に戻った実習生の開口一番での感想。家庭を持っているという30代の女性実習生の一言に私はシビれた。

私は長年障害者と職場で仕事関係が続けているが、障害者を明るい、暗いで考えた事がなかった。明るい暗いはそもそも性格とか体質とかで感じることで、障害の有無で推し量るとは想定外のことであった。聞いてすぐに「そっか、障害者はその障害の重さのために、暗く静かな日々をすごしていると思われてるんだな」と思い当たったが、それにしても明るさにびっくり！するとはね。

今週の実習生さんは「障害者に会うための注意事項は、なんでしょか」と思い詰めたように質問してきた。「普段通り、ごく普通に接してください」と正直、私は窮しながら返答した

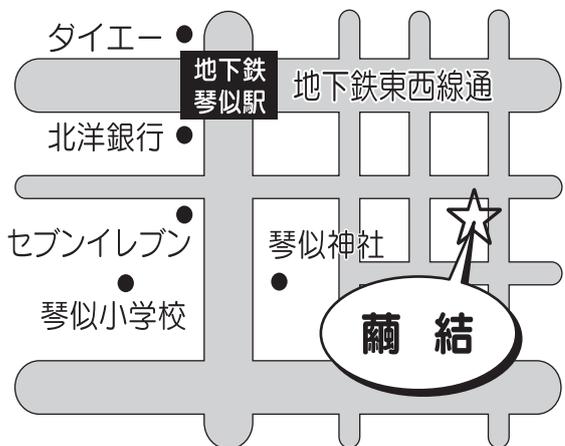
が、個人に接するときの注意や留意はたくさんあるが、障害者という総体に対する注意事項とはどんなことだろう。障害者というのは存在なのか、呼称なのか。いえるのは、障害者は特別視されている、という事実だ。

障害者数であるが、平成12年のちょっと古い資料によると身体障害者は351万人(千人にあたり28人)だし、知的障害者は50万人(4人)、精神障害者は259万人(21人)となっている。

これをみて判るように人口千名に対し50名余の障害者がいる事がわかる。これは障害者手帳の数から作られているが、手帳を保有しない障害者は含まれておらず、また近年ますます増加傾向にあることも加味すれば、10人に一人は障害者という認識もあながち的外れでもない。

障害者、もはや特殊な存在ではない。社会のごく自然な構成員であるにもかかわらず、福祉の根底を支えるヘルパーの実習生にして、障害者って明るい！とか、障害者用の礼儀や接しマニュアルが知りたい、という程度なのだ。

障害者よ、世間の期待に応え、暗く、憂鬱に、泣き伏して天を呪おう。ヘルパーよ、沈鬱な障害者の傍でオロオロと世間のせいだ、神は無慈悲だと涙しよう。そうすれば、可哀そうな障害者・大変なヘルパーさんと世間はハグしてくれるでしょう・か。



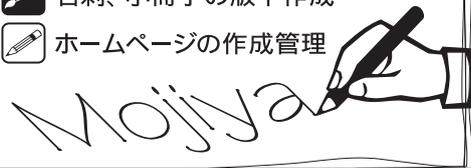
札幌市西区二十四軒4条6丁目5-32 テラ二十四軒 1F
TEL 011-623-2505 FAX 011-644-0088



共働事業所 もじや

〒063-0812
札幌市西区琴似2条5丁目3-5マンションMOMO 1F
TEL (011)644-5533 FAX (011)613-9323
E-mail: mojiya@npolife.net

-  印刷・編集・制作・出版・企画
-  テープ起こし
-  名刺、小冊子の版下作成
-  ホームページの作成管理



東日本大震災—私たちにできること

門田 輝美

東日本大震災で被災された方々に心よりお見舞い、お悔やみ申し上げます。

先の見通しもつかず、今だ余震の続く中、原発事故はどんどん大規模になり、どれだけ不安な毎日をおおくりのことでしょうか。

家族や友だち、家や仕事までなくし、数々の思い出の品まで自然に呑み込まれ辛い思いをしながら、自分たちも被災者でありながら被災者の支援をしている自治体の職員の方、自衛隊、警察、消防の方、医療従事者の方、自分たちにできることから始めようとボランティアに励む高校生。「支援物資を通じて、全国からの熱い気持ちが伝わってくる。乗り越えられない試練はない」と未来に向かって頑張っている姿を報道で見ると、私たちが元気づけられ、勇気さえもらえます。

また、住めるところがあり、着るもの、食べるものがあり、働ける場があることのありがたさを改めて感じています。

そんな私たちにできること、今は日数も経っておらず人々の関心も高く、支援も集まりやすいかと思いますが、今だけではなくこれからもずっと継続して支援していくことだと思います。



撮影：
元氣ジョブ・大加瀬

笑門来福

加藤 信一

昔から「笑う門には福来る」といいますが、現在の医学でも「笑う」ということが非常に重要視されています。笑うとNK(ナチュラルキラー)細胞というものが発生するそうです。なんとそれが「がん細胞」を破壊してしまうというのです。「がん」だけではありません。あらゆる免疫能力が高まり、その他の病気も軽快するというのです。それも「腹が立ってどうしようもない」状態でも、造り笑顔

をするだけでNK細胞は発生するそうです。

実際に「よしもと新喜劇」を観る前と後の血液を検査すると、NK細胞が増加しているそうです。逆に「頭にきた」と、ひとこと言っただけで、体のバランスが崩れるそうです。

何か一生懸命という、肩にちからを入れて眉間にしわをよせているのを想像してしまいますが、「ニコッ」としてリラックスするのも一生懸命かもしれませぬ。

貴重な体験をしました

岩崎 佑司

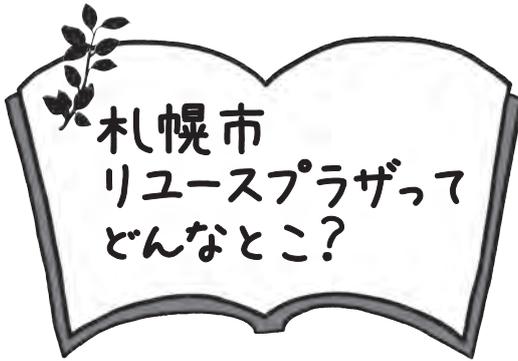
今回、とある事務所で約3ヶ月間ボランティアスタッフとして仕事をしてきたことを書きたいと思います。

雪がまだシンシンと降り続ける日が多い1月にお世話になりはじめました。初日はかまえたばかりだったので、人員も少なく、自分も含め、片手で足りるくらいの人しか事務所内にはいませんでした。最初に行った仕事は、リーフレットにハガキを差し込むという軽作業が中心でしたが、序々に別の内容の仕事も増えてきて、毎日淡々とこなしていました。

2月になると他の所からもボランティアスタッフの方が来ました。人見知りの激しい自分にとっては、うまくしゃべることが出来ず、なかなか仲良くなる事が出来なかったのですが、しばらくすると自然に世間話が出来るようになりました。

3月になると活気づいてきて、毎日色々な仕事があり、自分は朝から帰る時間までパソコンで住所入力の仕事をしていました。久々にパソコンを触ったので、新鮮な気持ちで毎日入力するものが無くなるまで、やることができました。

たくさんの人たちに支えられ、約3ヶ月間と長いようで短い間でしたが、良い経験が出来たのではないかと思います。



- 開館時間：10時から16時まで
(資源回収・家具販売は15時まで)
- 休館日：年末年始、月曜日
(祝日と重なった場合は翌平日が休館となります)

Point!

札幌市リユースプラザは「札幌市厚別地区リサイクルセンター」を併設しています。

土曜・日曜を含め、リユースプラザ営業時間内であれば一般家庭の資源物を回収しています。

リサイクルセンターのご利用をかねてリユース自転車やリユース広場の家具の見学はいかがですか。

Point!

札幌市民のみなさんが不要になった木製家具や遊具などを、市が回収し、再利用可能なものを展示即売しています。基本的に簡易修理を施して提供いたします。

※ 販売されている家具は、大型ごみ(有料)のうち、【リサイクル希望】として出されたものです。

※ 大型ごみのお引取りは、受け付けておりません。

check!

- ✓ リユース品のため、1点限りの品物です。内容をよくご確認の上、ご購入ください。
- ✓ 代金引き換えでお引取りください。(お引取り時間は開館日の16時までです)
- ✓ 品物の保管、返品、お引取り後の補修は承っておりません。
- ✓ 配送をご希望の方には、配送業者をご紹介します。
- ✓ 展示販売時間 10:00～15:00(月曜・年末年始休館日)

自転車抽選会ご案内

- リユース自転車を抽選で販売しています。
- 毎月第1・第3火曜日から展示をし、翌週の金曜日まで応募用紙を配布し、第2・第4の土曜日11時から公開抽選会を行います。
- 当選者には直接電話でお知らせします。また、抽選会当日13時以降、屋外の掲示板にも当選番号を貼り出し、ホームページにも記載します。
- 引き取りは、日曜日から水曜日までに自転車代金と抽選半券をご持参下さい。
- 応募受付時間 10:00～15:00(月曜・年末年始休館日)



日時

5月5日(木)
午前10時～午後3時

場所

札幌市リユースプラザ
(厚別区厚別東3条1丁目1-10)

「東日本大震災救援バザー」開催!

被災地支援のために私たちができること。
子どもの日に元気を届けよう!

福祉事業所で集めたリサイクル品のバザー収益は、全て義援金として寄付。また、飲食バザー・福祉事業所の手づくり品販売の収益の一部も義援金として寄付致します。

「子どもの日 元気になーれ RR(るんるん)まつり」に参加して応援エールを送りましょう!



ゲーム&イベント

- 10:30~11:00 4Rゲーム**
これは4Rのうちどれかな??
景品もあります。
楽しみながらリフューズ・リデュース・リユース・リサイクルを学びましょう。
- 12:30~13:10 アイヌミュージシャン Toy Toy さんのステージ演奏**
- 13:30~14:00 4Rゲーム**

●エコバック作り
午前・午後各回 20 名。整理券配布。



●展示コーナー
「エコな手づくりおもちゃで遊ぼう!」・ごみ減量展示
ペットボトルや空き缶などを使った、あっと驚く楽しいおもちゃで遊んでみませんか?



出店

- ・焼きそば
- ・たこ焼き
- ・ちまき
- ・フランクフルト
- ・フライドポテト

福祉事業所製品の販売

- ・リサイクル石けん
- ・アクセサリー・手作り製品
- ・クッキーなど

復興市

- ・リサイクル品の販売。
- ・被災地からの授産製品を販売。

子ども用品即売会

- ・ベビーカーや三輪車、室内遊具などのリユース品販売。
- ・子ども用自転車の即売もあります。

●主催 札幌市環境局環境事業部 札幌市リユースプラザ (011) 375-1133

私のオススメ

「雨ニモマケズ」

理事 我妻 武

宮沢賢治は、岩手県川口村（花巻市）で生まれているが、賢治が生まれる約2か月前には三陸地震津波や、その後の陸羽地震で岩手は大きな被害を被ったそうだ。

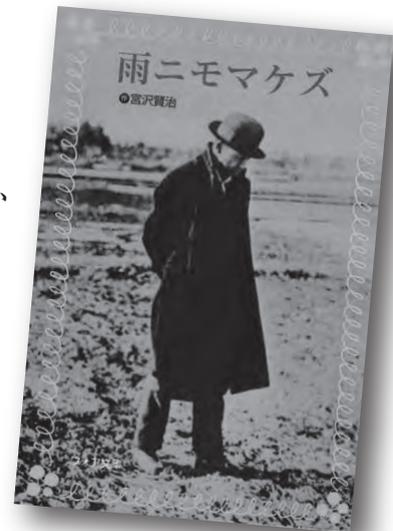
生家は質屋を営んでおり、農家や経済的に困窮していた人たちの姿を子供の頃から見ていた賢治に大きな影響を与えたともいわれている。

そんな宮沢賢治の詩を今回の震災で良く聞くことになった。中でも宮沢賢治の死後発見された「雨にもまけず」は自然と人間に畏敬の念の持った素晴らしい詩だと思っている。こんな時だからこそ改めてゆっくりと読み直してみたい。パソコンが使える環境にある方はYouTube（ユーチューブ）で俳優の渡辺謙さんが朗読をしているのでご覧ください。

<http://ceron.jp/url/www.youtube.com/watch?v=hvFEffacY5g>

雨にも負けず
風にも負けず
雪にも夏の暑さにも負けぬ
丈夫なからだをもち
慾はなく
決して怒らず
いつも静かに笑っている
一日に玄米四合と
味噌と少しの野菜を食べ
あらゆることを
自分を勘定に入れずに
よく見聞きし分かり
そして忘れず
野原の松の林の陰の
小さな螢ぶきの小屋にいて

東に病気の子供あれば
行って看病してやり
西に疲れた母あれば
行ってその稲の束を負い
南に死にそうな人あれば
行ってこわがらなくてもいいとい
北に喧嘩や訴訟があれば
つまらないからやめろとい
日照りの時は涙を流し
寒さの夏はおろおろ歩き
みんなにぞくのぼーと呼ばれ
褒められもせず
苦にもされず
そういうものに
わたしはなりたい



🎉🎉 ご協力ありがとうございます 🎉🎉

寄付金

星野 輝明様

アドボケ購読料

菊谷 みどり様

編集後記

震災からまもなく2カ月が経とうしていますが、被災された方々はまだ現在進行形で非常に大変な中に置かれています。さらには障害を持つ人たちの状況も気になります。国や民間による支援は始っていますが、長期的かつ継続的な支援が必要となります。そのために自分に何ができるのか。あるテレビ番組で被災地の物流について取り上げたものがありました。大手の宅配会社の社員が自主的に自社の人や車を使って支援を行い、それが会社全体の支援につながっていくという話でした。しかし、専門性なくてもできる支援はたくさんあります。（タケ）

アドボケイト 卯月号(第125号)

2011年4月10日発行(毎月10日発行) 通巻第469号

HSK通信1973年1月13日第3種郵便物認可

発行人/北海道身体障害者団体定期刊行物協会

細川 久美子

〒063-0868 札幌市西区八軒8条東5丁目4-18

編集人/NPO法人札幌・障害者活動支援センターライフ

事務局長 我妻 武

〒063-0812 札幌市西区琴似2条5丁目3-5マンションモモ1F

TEL 011-614-1873 FAX 011-613-9323

E-mail honbu@npolife.net

ホームページ <http://npolife.net/>

郵便振替口座 02710-4-63485